

坂和総合法律事務所

事務所だより

第10号 2008（平成20）年新年号

編集・発行：坂和総合法律事務所
〒530-0047

大阪市北区西天満3丁目4番6号
西天満コートビル3階

TEL06(6364)5871・FAX06(6364)5820

メール office@sakawa-lawoffice.gr.jp

<http://www.sakawa-lawoffice.gr.jp>



昨年10月10日に
北京電影学院で
特別講義をしてきました。
(詳細は4頁をご覧ください)



今年もよろしくお願い致します。
森田弁護士・細谷・金子・嶋津・三田村
永田・坂和弁護士・稻井

新年明けましておめでとうございます。

- 1) 07年7月の参議院選挙の大敗後、安倍政権は1年で崩壊し、9月福田丸が船出しました。しかし、「大連立」騒動をはじめとして、衆参ねじれ現象下におけるあるべき政策決定の姿は模索中で、わが国の政治はマヒ状態、危険水域に入っています。
- 2) 同盟国アメリカでは、既に死に体(?)のブッシュ政権はイラク・イラン問題の処理に精一杯で、北朝鮮のテロ支援国家指定解除の可能性さえも……。給油艦が撤退した後、インド洋では中国海軍のウエイトが大きくなりそうで、日本の国際的地位の低下と中国の進出が好対照です。
- 3) 今年の注目は、さまざまな矛盾を抱えながら8月に開催される北京オリンピックですが、私が見守りたいのはその後の中国の動向。すなわち、希求されている和諧社会がどのように実現していくのか、期待と不安がいっぱいです。なぜなら、それによって日本の生き方が大きく影響されるから。
- 4) 弁護士の大量増員の問題点と法科大学院の問題点は今や明確ですが、大切なことは競争には勝ち組と負け組があることを前提として本音で制度設計をしなければダメだということです。「教育再

生」の旗印は一体どこに消えてしまったのでしょうか？ 幼稚な法科大学院生や司法修習生の増大そして議論できない弁護士の増大は、国益よりも私益を重視する政治家や官僚の増大と同じように国家的に深刻な問題です。しかし、その解決策は・・・？

- 5) 08年4月以降、同級生たちが還暦を迎える年となり、私の還暦ももうすぐです。また26期の弁護士としては、今年8月の35周年記念集會に参加します。しかし私としては、弁護士稼業に映画評論家稼業によく頑張ってきたもの、と昔を振り返って考えず、今年も出版、執筆、講演等々、何ゴトにも前向きに取り組んでいく決意です。

今年1年が日本にとって、そして皆様にとってよい年となることを心から願っています。

2008（平成20）年元旦

坂和総合法律事務所

所長 弁護士 坂和章平



(1)『津山再開発奮闘記』(仮称)を4月に出版！

01年以来取り組んできた津山の再開発事件が07年3月1日の東京簡裁での特定調停成立によってすべて「解決」した。後は組合の解散手続を進めるだけとなったが、07年11月27日岡山県による解散の認可を得たため、公告等の事務的手続を経て08年3月にはすべて終結する見込み。そこで07年4月からスタートしたのが、『津山再開発奮闘記』の出版企画。賦課金を課する総会決議の効力に関する判決(岡山地判平成17年1月11日判タ1205号172頁)、再開発組合の破産能力に関する決定(岡山地裁津山支決平成14年5月10日判時1905号92頁、広島高裁岡山支決平成14年9月20日判時1905号90頁)をはじめとする全国初の貴重な例を本にしなければと頑張った甲斐あって、08年4月には出版が実現！

07年7月出版の『建築紛争に強くなる！建築基準法の読み解き方—実践する弁護士の視点から—』(民事法研究会)は、東京の弁護士会館ブックセンターのホームページで発表された07年8月の売上げランキングで6位になったとのことだから、津山の本にも期待したい。

(2)『景観紛争の上手な対処法』も！

04年11月には『Q&Aわかりやすい景観法の解説』(新日本法規)を出版したが、その後、京都市による新景観政策の施行(07年9月)や東京都による景観条例の改正と景観計画の制定(07年4月)など景観をめぐる状況は激変している。国立マンション事件が一応の結末を見せ、景観法の制定に伴う景観計画区域と景観地区指定の状況も見えてきた今、私なりの視点で『景観紛争の上手な対処法』をまとめるには絶好のタイミング。

したがって、08年の夏までにはこれまで仕込んできたネタを一気に爆発させて、懸案の企画を完成しなければ。これはまさに自分自身に対するハッパかけであり、08年に向けての抱負と決意！

(3)映画評論家活動はさらに本格的に！

シネマルームの出版は08年2月の『パート15』に続いて、『パート16』と『坂和的中国電影大観Ⅱ』となる『パート17』をすでに準備中。08年の注目点は、中国人民13億人をターゲットにした中国語による『坂和的中国電影大観』が出版できるかどうかということ。07年10月10日の北京電影学院での特別講義の後、翻訳者となる中国人2名と中国の出版社との企画を打合せしているが、それが本格化すればすごいことに。乞う！ご期待！

(4)毎週金曜日の連載をきっちりと！

07年11月から始まった大阪日日新聞の毎週金曜日の「弁護士坂和章平のLAW DE SHOW」の連載はプレッシャーと楽しさが共存。難しいのは毎週どの映画を取り上げるかだが、私としてはやはり自分が心から感動した作品についての率直なメッセージを伝えたいと考えている。ちなみに事務所だよりは4200部作成しているから、08年からは大阪日日新聞の購読者も飛躍的に増えるのでは・・・？(同封の書籍注文書裏面の記事参照)

1年間で約48回、先は長いが阪神タイガースの金本知憲選手の連続試合出場と並ぶくらいの金字塔を打ち立てるような決意で頑張っていく決意！

ちょっとCM

「抱負と決意」でも報告したとおり、昨年11月から大阪日日新聞で坂和の映画評論の連載(毎週金曜日)が始まりました。「坂和先生の評論はもれなくチェックしたい！」という方は定期購読(月額1,995円)をどうぞ！！

お申込み・お問合せは坂和総合法律事務所まで。

(5)おっと、本来の弁護士業務も！

映画評論家としての仕事も増えてきたが、そうかといって本来の弁護士の仕事がガクッと減ったわけではない。各種さまざま、大小さまざま、そして民事、商事、労働、刑事等々あらゆる分野での相談や事件が途切れることなく続いているのは幸せなこと。

私は弁護士が自分に最も適した天性の職業だと信じて活動をしているが、落合中日の日本シリーズ制覇等をみると、時代は再び「オレ流」を求めているのではないかという気が・・・。

もしホントにそうであれば、坂和流の私だって大いに社会のお役に立てることがあるのでは・・・？そんな風に考えながら、08年も坂和流であれもこれもフル稼働していくつもり。還暦を間近に控えたそんな坂和弁護士の08年の生き方を、よろしく見守っていただきたいものです。

もりたしげみ

森田慈心弁護士、入所のごあいさつ



『命知らず』の

森田慈心(もりたしげみ)です。

はじめまして、昨年の9月5日から弁護士として勤務させていただいております。31歳で、妻と0歳の子供がいます。弁護士になる前は、実家のある福井県の職員として、5年間勤務しておりました。現在、滋賀県の大津市から電車で1時間程かけて通勤しております。

さて、法科大学院の設置等司法制度改革の荒波をモロに受け、就職難に喘いでいた私でしたが、先生のホームページを見て、この事務所に入れば、様々な事件が経験でき、いち早く一人前の弁護士になれるのではないかと思います。厳しいことを覚悟の上、坂和総合法律事務所に就職することにしました(ちなみに、ある大阪の弁護士の先生に坂和事務所に入ったことを報告すると、「命知らずやな」と言われました・・・)。

そして実際入所してみると、交通事故の事件や離婚事件、そしてテレビでも取り上げられるような某大手鉄道会社を相手とする損害賠償請求事件、また破産事件や行政事件、刑事事件まで、まだ入所して3カ月余りですが、本当に多くの事件を経験させていただいております。

また、厳しさの面においては、・・・いわずもがなであると思います。

先ほども言いましたとおり、私は入所して3カ月余りになりますが、まだまだ自分が何も知らない未熟者であることや勉強不足、力不足を痛感し、司法試験の勉強、司法研修所での研修で何を勉強してきたのか、そもそもこれまで(福井県職員として勤務していた5年間も含めて)31年間何をしてきたのかと自己反省するとともに、悔しさを感じる毎日です。

とはいっても、反省や悔しさを感じるだけではダメなので、今の自分の能力を冷静に見極めつつも、一人前の弁護士になるべく、依頼者のため(妻のため、子供のため?)、モガキながら、事件に向き合い、日々何とか前に進もうとしているところです。

今後も依頼者のため(妻のため、子供のため?)、事件に向き合い、日々勉強し、力をつけ、一日も早く坂和事務所の戦力になれるよう頑張っていきたいと思っています。

今後ともよろしくお願いします！

坂和宏展の新米弁護士奮闘記～第3回～

坂和弁護士の息子の坂和宏展です。早いもので弁護士生活も2年目に入り、事務所には後輩となる司法修習60期（旧試験）の弁護士も入所してきました。去年の自分はあんな感じだったのかな、と思うと感慨深いものがあります。

さて、司法制度改革による近年の弁護士数（司法試験合格者数）の大幅な増加に伴い、新人弁護士の「就職戦線」は年々厳しさを増す一方です。日弁連までが公然と「ノキ弁」（事務所の「軒」を貸してもらう、つまり事務所の机とスペースだけ使うが事務所から給料はもらわない）などという言葉を使うようになったし、「初任給」は全国的に徐々に低下しているようです。

これに対しては、「もともと弁護士は恵まれていた」とか、「一般の就職活動に比べればまだまだ甘い」「弁護士を必要とする環境はまだまだたくさんあり、弁護士自身の自己アピール力とチャレンジ精神の問題」といった批判も少なくありません。

個人的な考えですが、このような批判は実際のところ、

かなりの的を射ているのではないかと思います。ただし、それを新人弁護士に向けることが適切かどうかは別問題です。弁護士過疎の問題も、企業や行政における内部弁護士の意義も、すべてこれまでにさんざん指摘されてきたことです。それを実現できなかったのは、それまでの弁護士自身がチャレンジもアピールもしてこなかったからではないでしょうか。

今、「法テラス」にはそれなりの数の新人弁護士が就職しているし、私の同期では、約1年の勤務弁護士生活を終え、法テラスの公設事務所に次々と赴任しています。企業に採用されその中で活動している弁護士もいます。従来型の就職をした人も、多くは何十倍という倍率の就職戦線に挑んできた人たちです。弁護士の活動領域は確実に広がりにつつあり、多くの新人がそれを担っています。新人だけが「しわ寄せ」を被っている、という受け止め方が正しいのかそれとも間違っているのかは、何年か経ってはじめてわかるのかも知れません。私も、そんな新人弁護士の一人として頑張っていきたいと思います。



坂和が選ぶ2007年の映画ベスト5！
（坂和が2007年に観た映画の中からベスト5を選出します）



<洋画編>

第1位 ブラック・ブック （『シネマ14』140頁）	ユダヤ人美女がオランダのレジスタンス組織に入り、ナチス将校とねんごろに！『マタ・ハリ』ばり（？）のスリル溢れる展開は、満点の出来。さて、あなたはこの映画から何を学ぶ？
第2位 4分間のピアニスト （『シネマ15』）	ピアニストを主人公にした名作は多いが、殺人犯のピアニストは超異例！圧巻の演奏シーンは2カ所。あなたの魂が揺さぶられること確実！
第3位 グッド・シェパード （『シネマ16』）	CIA創設の物語がロバート・デ・ニーロ監督によって壮大な人間ドラマに！守屋次官騒動にみる防衛省の実態にはゲンナリだが、それが実情。こんなニッポン、一体どこへ漂流していくの・・・？
第4位 ディスタービア （『シネマ16』）	「覗き」は人間本来の欲望（？）だが、そこで見たものは？ヒッチコックの名作『裏窓』（54年）の現代版は、アツと驚く結末に。ちょっと恐いけど、必見！
第5位 ブラッド・ダイヤモンド （『シネマ14』116頁）	野性味タップリのディカプリオが魅力的だが、アフリカものは難しい。自由と家族と真実をテーマとした人間ドラマをじっくりと！

<中国・台湾映画編>

第1位 見知らぬ女からの手紙 （『中国電影大観2』）	中国四大女優の1人徐静蕾（シュー・ジンレイ）が、監督・脚本・主演に大活躍！その底知れぬ才能にはただただ脱帽！
第2位 長江哀歌（ちょうこうエレジー） （『シネマ15』）	三峡ダム建設によって消えゆく村・・・。中国第6世代監督の旗手賈樟柯（ジャ・ジャンクー）の問題提起をしっかりと！
第3位 西瓜 （『シネマ14』266頁）	ほとんどセリフなしの展開は、韓国のキム・ギドク監督と同じくだが、台湾の天才蔡明亮（ツァイ・ミンリャン）監督のショッキングな映像と歴史に残るラストシーンに度肝を抜かれること確実！
第4位 雲南の少女 ルオマの初恋 （『シネマ15』）	雲南省には少数民族がいっぱい。棚田で有名なハニ族の娘が、この映画で一躍トップスターに。こんな映画から、私たちが失ったものの再確認を！
第5位 中国の植物学者の娘たち （『中国電影大観2』）	「下放」後フランス留学した戴思杰（ダイ・シージェ）監督の『小さな中国のお針子』（02年）に続くテーマは、禁断の同性愛。雲南省を舞台に展開される妖しい魅力にクラクラ・・・。

<邦画編>

第1位 ゆれる （『シネマ14』88頁）	『エデンの東』（55年）ばり（？）の兄弟の確執は、遂に刑事裁判に発展！法廷モノとしても一級品だが、人間描写の鋭さが最大のポイント。日本映画の傑作なお健在！西川美和監督の才能に拍手！
第2位 キサラギ （『シネマ13』61頁）	グラビアアイドル如月ミキの自殺はウソ？ひょっとして他殺？5人の男たちが展開する「怒濤の推理」の行方は？『十二人の怒れる男』（57年）に匹敵するワンシチュエーション映画がここに誕生！こんなオモロイ映画最高！
第3位 寝ずの番 （『シネマ15』）	「そ、そ〇が見たい・・・」から始まる傑作が、「活動屋」のDNAの正当な承継者津川雅彦の才能によって誕生！こりゃオモロイよ。こんな映画、最高よ！
第4位 夕凧の街 桜の国 （『シネマ15』）	2つの時代の、2人の女性の目には、あの原爆の悲劇はどのように・・・？年に1度はこんな映画から、広島への原爆投下を真剣に考えてみたいもの・・・。
第5位 スキヤキ・ウエスタン ジャンゴ （『シネマ16』）	鬼才三池崇史監督の才能を、私もやっと理解！バカバカしさもここまで徹底すればすごいもの。英語も拳銃の使い方も意外に本格的（？）だが、ベネチア国際映画祭での受賞なしは実に残念・・・。

<韓国映画編>

第1位 絶対の愛 （『シネマ13』86頁）	韓国の天才キム・ギドク監督の第13作目は、整形美女が主人公。男の「飽き」＝恋人同士のセックス鮮度とは？という真剣なテーマに向き合ってみれば・・・？
第2位 キムチを売る女 （韓国・中国合作） （『シネマ16』）	軽薄短小な邦画が蔓延する中、朝鮮族出身のチャン・リュル監督の才能に注目！格差とは？差別とは？絶望とは？そんな言葉は、この映画を観てから言うべきでは・・・？
第3位 百万長者の初恋 （『シネマ13』128頁）	『夏物語』（06年）は×だったが、こちらは◎。伏線の見事さと劇中劇の面白さ、そして韓流純愛の妙味をタップリと！
第4位 ユゴ 大統領有故 （『シネマ16』）	大統領選挙の真っ最中に何ともしごい映画が！日本の政治が2級品なら、韓国のそれは？隣国のこんな事件をあなたはきっと知らないはず。映画から学ぶべきことは実に多いのでは？
第5位 約束 （『シネマ16』）	脱北者同士の純愛モノは珍しいが、南北を股にかけた恋の成就是？「約束」の重みをどのように受け止めれば・・・？

北京電影学院 特別講義 報告

1. ついに北京電影学院での特別講義が実現した！
そのきっかけは、事務所だより第9号の交遊録に登場した、北京電影学院客員教授の肩書をもつ古澤敏文氏と意気投合したこと。北京電影学院は、中国第5世代監督の張藝謀（チャン・イーモウ）や陳凱歌（チェン・カイコー）らを輩出した世界でも珍しい国立の総合映画大学の最高峰。そこで学ぶ約50名の院生を前に、2時間半の授業で私が熱く語ったのは「坂和的中国電影論」。
2. 10月9日の打合せと昼食会そして学院内の見学を経て、翌10日、学院内には「日本著名電影評論家坂和章平談 中国電影在日本」と書かれた私の顔写真入りの大きなポスターが。

注目



うれし恥ずかしの気持ちいっぱい、45分前に教室に入ったところ、既に最前列の席をキープする約10名の院生がいた。配布した授業のネタは中国語版レジメ4枚だけだが、私の手元には膨大な資料が。ちなみに、当日は朝4時半に起きて、ホテルの部屋で講義メモをバッチリ作成。

3. 授業終了後は『SHOW-H E Y シネマルーム』の中国語版はないのか？をはじめとする質問が次々と出され、私の講義に対する院生たちの興味と関心の強さがありありと！そして今や、この講義録を含む『坂和的中国電影大観』パート2となる『シネマルーム17』の出版計画は確定したうえ、いよいよ中国人民13億人をターゲットにした中国語版による『坂和的中国電影大観』の企画が現実的テーマに。
4. なお、10月9日の古澤氏との打合せの際、喫茶室で出会ったのが『呉清源 極みの棋譜』（06年）の田壮壮（ティエン・チュアンチュアン）監督。そこで、私たちは厚かましくも自己紹介をさせていただいたうえ、ツーショットの写真（↓）を。こりゃ一生の記念写真に・・・。



北京旅行記（07.10.7～10.11）～胡同（フートン）めぐり

北京旅行2日目の10月8日は、朝から晩まで北京の再開発の視察と胡同（フートン）見学に歩き回ったのでその報告を。

1. 前門大街、大柵欄街めぐり

- (1) オリンピックを控えて北京のまちの再開発と胡同の取り壊しは急ピッチだが、特にそれがすごいのが、天安門広場から数キロ南の前門大街や大柵欄街。ここは「北京の浅草」で庶民的な下町の雰囲気溢れる地域だが、既に解体されている店も多い（写真①）。まずは最初に立ち寄った古いポスターを売るおみやげ店で、6枚まとめて200円で購入し、店員さんと一緒にパチリ（写真②）。



写真①

北京電影学院の学長、王教授、劉教授、古澤先生と記念撮影。大変お世話になりました。



- (2) 大柵欄街には薬屋（北京同仁堂）、お茶屋（張一元茶屋）、靴屋（内聯昇鞋店）等の有名な店が多く、おみやげが増える一方。これでは再開発の現地視察か、買い物ツアーか若干あいまいに・・・。

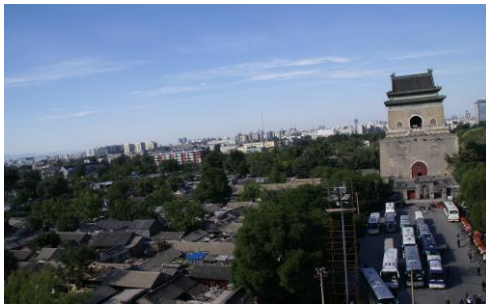
写真②



2. 前海・後海・西海周辺と鼓楼・鐘楼周辺めぐり

- (1) 本日のメインは、北京の西北にある前海・後海・西海周辺と鼓楼・鐘楼から恭王府付近に残っている胡同めぐり。都市問題をライフワークとしている私としては、詳しく見分しておかなければ・・・。
- (2) 胡同とは「主に中国の首都北京市の旧城内を中心に点在する細い路地」のこと、また中国の伝統的家屋建築である中庭をもった四合院には、たくさんの約束ゴトが。日本でも檜の木造建築を好む金持ちたちがいるように、中国でも昔ながらの四合院を好む大金持ちはビルではなく巨大な四合院を建てている。間近に見るとその広さはちょっと信じられないほど。
- (3) 鼓楼の上から再開発中のまちを撮影すると、その激変ぶりは一目瞭然（写真③④）。まずは人力車で胡同の東側めぐりに出発。値段は1時間100元（約1500円）（写真⑤）。胡同の中は迷路のようなもので自分の位置がサッパリわからなくなってしまうが、あちこちに茅盾故居などの有名な四合院が（写真⑥）。

写真③→



写真④↓



←写真⑤

写真⑥→



- (4) さらに、胡同西側めぐりの人力車に乗って、什刹海（シャンチャーハイ）公園めぐりに。観光客相手に有料で開放された四合院もあり、その中では書斎のデスクでパチリ（写真⑦）。こういう四合院の所有者の祖父は日本留学の経験をもつすごい経歴の人ばかりで、四合院の伝統を守るべく奮闘しているようだ。京劇の名優梅蘭芳の四合院も巨大なものだが、中に入らなかったのは残念（写真⑧）。
- (5) 前海・後海・西海周辺には、宋慶齡故宮など見学したいところがたくさんあったが、時間的に到底ムリ。次回は詳細なガイド本を持って、丸1日かける覚悟で見学しなければ・・・。

写真⑦↑

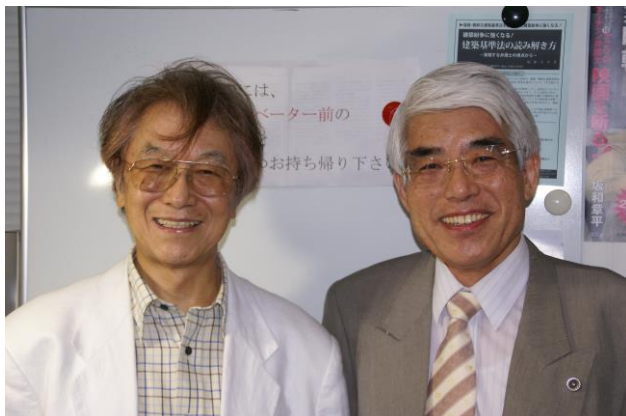


写真⑧↑



坂和章平とすばらしき人たち～交遊録 その3～ 浜村 淳 氏

1. 07年7月25日の天神祭パーティーには、何と大物ゲストとしてあの浜村淳さんが登場！
その軽妙なトークに出席者は目を見張り、一挙に浜村ワールドへ・・・。



2. 私が浜村さんと懇意になれたのは映画の試写室だが、『北京ヴァイオリン』（02年）のすばらしさに共鳴したことが縁で（？）、04年4月7日には、私と同じ30周年を迎えた有名な長寿番組『ありがとう浜村淳です』にゲストとして出演する榮譽にも。
3. 話していていつも驚くのは、彼の記憶力のたしかさ。70歳を超えてなおあれほどしっかりしているのは、彼の記憶は活字からだけではなく生まれながらの感性に加えて、しゃべった言葉とそれを聞いた耳が大きく効いているため。私の司法試験の受験勉強も、1人で大声でしゃべりながらのものだったが、口でしゃべり耳で聞くことによって記憶力は大幅にアップするもの。そんなしっかりした記憶に裏づけられた浜村節は、きっと今年の天神祭でも見られるはず！

事務局長のひとりごと（嶋津淳子）

あけましておめでとうございます。

昨年は、8月に私が作詞した歌『SOME～ミマモッテイルヨ・・・』のモデルとなった「東大くん」こと三田村邦雄くんが事務局員（弁護士ではないのが残念）として復活し、9月に森田慈心弁護士が入所しました。これにより、それまで、いつ怒られるかとビクビクしている、かわいらしい女の子が見えていた私の席の景観は一変。右に耳掃除しながら必死で書面を書いている「金子」、前に坂和に怒鳴られて神妙な顔ををしたのも束の間、また同じ失敗をしてさらに怒鳴られている「三田村」、左に嶋津の口撃に「クソッ」と思いながらも一人前の弁護士になるまでは、と歯を食いしばってがんばっている「森田弁護士」。そして右斜め前にある私のパソコンの画面を見るとその先に、さっき見ていたはずの資料が机の上の裁判の書面、映画評論の原稿、郵便物、新聞などたくさんの資料の中に埋もれたのか「チッ！」と言いながら探し、目の前にあったのを発見して「俺も歳とったかな？」と一人首をかしげている「坂和弁護士」（そこまで坂和弁護士の様子を見ているなら一緒に書類を探させて？だって、チャップリンの無声映画を観ているようでおもしろいんですもん）と男・男・男・男になりました（なお坂和弁護士はボケたわけではありません。書類を発見したあとはものスゴイ勢いで仕事を片づけていますので、ご安心下さい）。

この4人が「スマップ」だったらドキドキして仕事なんて手につかないのですが、幸い私が仕事をするについて支障はありません。

「スマップ」ならぬ「サカワップ」はビジュアルでは勝てませんが、仕事は負けていませんので、今年もいい仕事ができると思います。

今年も「サカワップ」と私たちビューティフルな事務局4人娘（？）をどうぞよろしくお願い致します。

坂和章平の独断と偏見による坂和事務所の

2007年 10大ニュース

- 1位 津山再開発組合解散認可（11月）
- 2位 北京電影学院で特別講義（10月）
- 3位 大阪日日新聞『弁護士坂和章平のLAW DE SHOW』連載開始（11月）
- 4位 『建築紛争に強くなる！建築基準法の読み解き方—実践する弁護士の視点から』刊行（7月）
- 5位 『シネマルーム13・14』同時刊行（10月）
- 6位 近畿共済主催運行管理者事故防止セミナーで講義（7～11月 計4回）
- 7位 元財務大臣 塩川正十郎氏と映画『吳清源 極みの棋譜』で対談（11月）

事務局次長の奮闘記（金子友次朗）

あけましておめでとうございます。

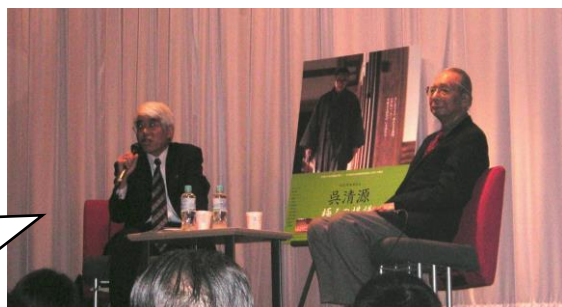
歌うことも踊ることもできませんが、「サカワップ」の一員として日々奮闘している金子です。本家（？）スマップのメンバーでいえば誰にあたるのか気になるところですが、誰にもあたらんわい！とはっきり言われるとショックなので、あえて聞かないことにしています。

さて、前回の奮闘記では『建築基準法の読み解き方』の出版について書きましたが、今回は『津山再開発奮闘記』（仮）の原稿作成が終了したことをご報告します（今年4月出版予定）。この『奮闘記』は、私がこれまで出版に携わってきた法律書とは趣が異なり、裁判所に提出した書面を裁判記録集として整理することがメインで、組合から相談を聞いた平成13年11月から昨年11月の解散認可まで、約6年間にわたる坂和弁護士の「奮闘ぶり」をまとめたものです。

私は、この津山再開発事件については、総会訴訟の一審判決が下された平成17年1月頃から担当事務局として出張に同行したり、書面作成等の事務を行ってきました。そうする中で私は、組合の理事や事務局の方たち、また、津山市担当者の方たちから実にさまざまなことを教えてもらい、多くのことを学ぶことができました。その大部分は、津山の隠れた（？）名店「焼き肉干恵」での宴席や食事後の2次会で語られたものでしたが、都市再開発法が定める権利変換の仕組みや区分建物の専有部分と敷地利用権の分離という法的論点を、具体的な事例から学ぶことができたのは大いに有意義でしたし、賦課金をめぐる反対派との攻防や再開発における補償交渉など、再開発の現場におけるナマの話を聞くことができたことは、何よりも貴重な経験となりました。

言い方は悪いかも知れませんが、弁護士（事務所）は事件をメシのタネにしています。しかし、それらの事件の一つ一つには当然生身の人間が存在しているのであって、そういう人たちからナマの話を聞くことは得がたい経験です。今後もそのような得がたい経験をどんどん増やすことができるよう、一つ一つの事件に力いっぱいぶつかっていきたくて考えていますので、よろしくお願いします。

- 8位 洪川再開発土壌汚染事件でJR西日本を提訴（10月）
- 9位 SHOW-HEYシネサークル設立（4月）
- 10位 映画検定3級合格（1月）



お正月は映画を観よう！～お勧め映画のご紹介～

『歓喜の歌』（日本映画）

（08年2月2日 梅田ガーデンシネマほかにて公開）

『ゆれる』（06年）、『フラガール』（06年）に続くシネカノンの傑作が登場！大晦日にママさんコーラス2チームがダブルブック。こりゃ大変！果たして妥協策、解決策は見つかるのか？大層なタイトルとは裏腹のコメディタッチの人間模様展開の中、思いがけない人間変革、社会変革の方向性が・・・。

『アメリカン・ギャングスター』（アメリカ映画）

（08年2月、TOHOシネマズ梅田ほかにて公開）

1970年代、ニューヨークのハーレムを舞台とした麻薬王（デンゼル・ワシントン）と刑事（ラッセル・クロウ）の2大重量級スターの対決は見どころ十分！意外なのはワイロを要求する悪徳刑事の横行。さて、三つ巴の闘いの行方は？157分の長尺だが長いと思わないこと確実！満足度は90%以上！

『ヒトラーの贗札（にせさつ）』（ドイツ、オーストリア映画）

（08年1月下旬より数島シネポップ&京都シネマにて公開）

国家による史上最大の贗札事件「ベルンハルト作戦」の全貌が今あなたの目の前に！命令するのは親衛隊（SS）、贗札づくりはユダヤ人技術者たち。守るべきは自分の命か、それとも家族や仲間そして国家か？お屠蘇気分が抜けた後にはこんなすごい映画が最適！

『北辰斜（ほくしんななめ）にさすところ』（日本映画）

（08年1月5日よりテアトル梅田、1月26日より京都シネマにて公開）

このタイトルは、七高（鹿児島大学）の寮歌の巻頭言。七高と五高（熊本大学）との百周年記念試合を物語の軸に、プロデューサーの廣田稔弁護士がアピールするのは旧制高等学校の教育のあり方！教育再生が求められる今、若者たち必見の映画。

『ここに幸あり』（フランス、イタリヤ、オーストリア映画）

（08年1月5日より梅田ガーデンシネマ、1月下旬より京都みなみ会館、1月中旬よりシネカノン神戸にて公開）

失脚した大臣を主人公として人間味あふれるドラマをつくるフランスはさすが文明国！権力と名誉とカネを失っても、時間と友人と温かい人情さえあれば・・・失脚間近のN大臣（？）のみならず、今を必死に生きている多くの日本人は、「どこに幸あり？」と問うてみる必要があるのでは・・・？

『やわらかい手』（イギリス、フランス、ベルギー、ドイツ、ルクセンブルグ映画）

（08年1月上旬より梅田ガーデンシネマ、2月より京都シネマ、神戸アートビレッジセンターにて公開）

このタイトルからあなたが想像するのは一体ナニ？その想像はきっと裏切られるはず。なぜなら、やわらかい手＝ゴッド・ハンズは、セックスショップで働く中年おばさんの手だから・・・？主人公がそんな売春婦まがいの仕事に手を染めたのは一体なぜ？こんな面白くかつ感動的な映画を観ない手はないと思うのだが・・・。

〔坂和総合法律事務所 業務時間ならびに周辺地図〕



＊ ＊ 坂和章平のカラオケ部屋 ＊ ＊

全米スポーツキャスター協会賞の特別賞の受賞により殿堂入りした元NHKのスポーツキャスター羽佐間正雄氏が主催する、第20回愛声会ゴルフコンペ（10/29）に2度目の参加。その懇親会では、1度目に続いてフルバンドをバックに、竹内まりやの新曲『人生の扉』を熱唱することに。あらかじめ歌詞カードを配布していたのがミソ。英語まじりの、50歳なんて人生の扉にすぎないというすばらしい歌詞と心にしみるメロディの熱唱に、約120名の参加者が酔いしれた（？）のは当然。オービックの役員会出席のため月1度の東京への新幹線の中で練習した成果はバッチリと自負しているが、さて・・・？

地下鉄谷町線・堺筋線「南森町」徒歩5分

地下鉄堺筋線「北浜」徒歩6分

地下鉄御堂筋線・京阪「淀屋橋」徒歩10分

JR東西線「大阪天満宮」徒歩6分

＊ ＊ ＊ 業務時間 ＊ ＊ ＊

平日 午前9時～午後6時

土曜日 午前9時～午後3時

業務時間外の相談を御希望の方は

お申し出下さい。

相談にこられる際は日時の予約をしていただき、

関係資料を一式持参して下さい。

また相談内容のメモを事前にFAXもしくは

メールにていただければ幸いです。

坂和総合法律事務所フロー案内

3 階 坂和総合法律事務所

2 0 1 坂和事務所会議室

4 0 1 オーナーズフロア

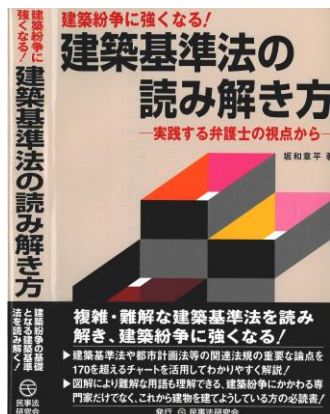
1階玄関はオートロックですので、当事務所に
お越しの方は「301呼出」を押して下さい。



←西天満コートビルの外観

出版物（新刊）紹介

ご注文は坂和総合法律事務所までFAX（06-6364-5820）もしくはメール（office@sakawa-lawoffice.gr.jp）にてお願いします。送料は実費をご負担いただきますのでご了承下さい。お支払は請求書を同封しますので、銀行振込にてお願い致します。



『建築紛争に強くなる！建築基準法の読み解き方』

—実践する弁護士の視点から』（民事法研究会）

定価3700円（税別）

05年11月のヒューザーと姉歯元一級建築士による耐震強度偽装の発覚によって「建築確認」を核とする建築行政に激震が！ピアチェックの導入や罰則の強化など第1弾、第2弾の法改正がなされ、07年5月には「特定住宅瑕疵担保責任の履行の確保等に関する法律」も成立し、自賠責保険と同じような強制保険の道も・・・。

しかし、建築基準法は難しくわからない。そんなあなたのためにその読み解き方が明快に！170のチャートを活用した章立てと論点整理によってわかりやすさはバッチリ！

坂和弁護士の本業での頑張りも是非ご注目を。

『ナニワのオッチャン弁護士、映画を斬る！』

SHOW-HEYシネマルーム13』（文芸社）

『ナニワのオッチャン弁護士、映画を斬る！』

SHOW-HEYシネマルーム14』（文芸社）

定価各1900円（税別）

とうとうやっちゃったシネマルーム13、14の同時刊行！

パート13はチョイ不良（？）「SHOW-HEY」が表紙を飾り、女性のハートをしっかりキャッチし、パート14では凛々しい社会派弁護士坂和章平が法律、政治、歴史など読者に考えるネタを提供しながら、SHOW-HEYワールドへと誘います。またパート13、14にはいくつかの作品については、その代表的な映像を掲載することができ、表紙だけではなく本文中も目で楽しめるものとなっています。

収録作品は13が全76本、14が67本。どこから読んでも楽しめるものとなっています。またパート14の巻末にはパート1～14までの総索引も収録！過去の評論を探すのに便利です。勉強に、DVDをレンタルする時の参考に、是非活用して下さい。

『ナニワのオッチャン弁護士、映画を斬る！』

SHOW-HEYシネマルーム15』（文芸社）

定価1900円（税別）

「観て、書いて、本にして」・・・「SHOW-HEY」のエネルギーはとどまるところを知りません。

パート15の特徴は、『ひめゆり』『TOKKOー特攻ー』『ヒロシマナガサキ』『夕凧の街 桜の国』という「あの戦争を問う」ドキュメンタリー+劇映画を取り上げ、あの時代に生きた人の「今、語らなければ、今、伝えなければ」という熱い思いを受け止めた評論です。そこで『パート15』では原爆ドームをバックとした社会派弁護士SHOW-HEYの真剣な表情をとらえた表紙にも注目！楽しいばかりではなく真剣に、そして熱く語りかけるSHOW-HEYワールドも是非お楽しみ下さい。

新刊



【その他のお勧め本】

愛媛大学法文学部での「都市法政策」の集中講義をまとめた『実況中継 まちづくりの法と政策』I～4

法曹界について坂和・吉岡・嶋津がそれぞれの視点で書いた『いま、法曹界がおもしろい！』

マンション建替え円滑化法を逐条ごとに解説する『注解 マンション建替え円滑化法』

景観法の条文にそってわかりやすく解説した『Q&Aわかりやすい景観法の解説』

ロースクールの教科書として大活躍の『実務不動産法講義』

「転ばぬ先の杖」交通事故の処理のことがよくわかる『いまさら人に聞けない「交通事故示談」かしこいやり方』

坂和弁護士の青春時代から、まちづくり、都市計画についてのコラム・評論、映画評論、旅行記までをまとめた

『がんばったで！31年 ナニワのオッチャン弁護士評論・コラム集』

映画評論家SHOW-HEYの初々しい処女作「シネマルームI」や「シネマルームII」「III」「4」「5」「6」「7」「8」「9」「10」「11」「12」も大好評発売中です（パート5は中国映画特集、パート8は韓国映画特集）。

ご注文は同封の注文書で。お待ちしております。